

# 介護者だより きずな

事務局：泉南市社会福祉協議会 TEL 482-1027 泉南市樽井1丁目8-47

## 20年をふり返って



西光 信江

介護者（家族）の会が発足したのは平成8年、12名の出発でした。それまではミニデイサービス（ボランティア）のお世話になり、又保健センターでは介護者・要介護者が共にゲームをしたり、ぬり絵をしたり、おしゃべりしたりして、楽しく過ごさせていただきました。

当時、市内で施設は特別老人ホーム、老人保健施設の2ヶ所しかなく、やむなく外出しなくてはならない時は、そこを利用して1泊泊めて頂き、用事を済ませたものです。

平成9年 ・りんくう公園でリフレッシュ交流会

\* 車に乗り合わせて、海の風を受けながらお弁当を食べました。

平成10年 ・大阪体育大学・学長の田口守隆先生の講演

\* 介護される側にも自己主張が必要と話されました。

・次々と開設されていった施設を見学

・元横田会長宅で、介護着製作

平成12年 ・日帰り温泉旅行

\* 車イスで乗降できるバスを借り、施設の方々に手伝ってもらい、要介護者も温泉へ入りました。

平成13年 ・講演 元高槻市長・江村利雄氏の「夫のかわりはおりまへん」

\* 介護はほどほどで丁度よいとの話を聞き、気が楽になりました。

平成15年 ・新年会

\* 豊満な胸、ミニスカート姿の会員さんによる踊り「黄色いサクランボ」熱演

平成18年 ・10周年記念誌「10年のあゆみ」発刊

平成22年 ・「介護サービスが必要となったあなたへ」 施設案内の冊子発刊

・第1回 WAO祭り 松本一生先生の講演会

\* 講演の後で、泉南市介護者（家族）の会と松本先生との交流会

・「共に歩む」～妻に寄り添って～ 発刊

\* 男の介護「味彩の会」の西浦氏、松坂氏、難波氏が介護体験を掲載。

その後平成26年、平中氏の介護体験も載せて「男の介護」として再発行。

\* 難波氏は「脳血管性認知症」になった妻の介護に携わって、ドリル「家族でできる脳のリハビリ」「やってみよう記憶」のリハビリ、1日の出来事のメモ書き、軽い運動、これらを2年半、毎日続けてこられたそうですが、無念ながら、平成23年1月ご逝去されました。悔やんでも悔やみき

れないと思います。今は天国で奥様を見守られていることでしょう。

平成 23 年 ・「若い介護者のつどい」（仕事をしながら介護を続けている介護者のつどい）  
\* 平成 26 年からはおみな会として女性だけで集まっています。現在は「シニアのためのヨーガ教室」を月 1 回開催。

平成 24 年 ・「母を看取り終えて」冊子発行  
\* 介護者（家族）の会の発足から、副会長として貢献されてきた田島芳子さんが平成 23 年 10 月、90 歳でご逝去され、介護されてきた娘のみな子さんが手記を書かれました。

平成 26 年 ・「家族介護の日仏比較」報告会  
杉田くるみ先生 フランス国立科学研究センター 研究員  
マダム・オーレリーダマム パリ第 8 大学 社会学部准教授  
\* 杉田先生は平成 23 年から 24 年にかけて、「介護者と職業生活の実態調査」のため、泉南市・岬町で介護者から聞き取り調査をされました。杉田先生は介護者・要介護者の支援に力をいれているケアラー連盟の理事もされていました。

### 介護者（家族）の会に入会したからこそ

月 1 回のつどいでは、施設の職員、ボランティアさん、お互い励まし合い、悩みを聴いてもらい、介護だけでなく聞きあい、和気あいあいと集って気が休まります。介ん力惜しみなく介護されています。

この会に少しの手助けになればと、ヘルパーの仕事を参加させて頂いています。

会長はじめ、会員の皆さん、支えてこられた縁の下の力持ちさん、介護しながらの 20 年という長い年月ご苦労様です。

これからも 25 年 30 年と長生きして、共に頑張りましょう。



寮母さんの助言があり、く、介護者の体調の変化に終わりはない、皆さ

続けながら、微力ながら

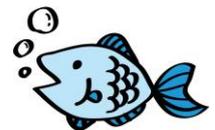
## バス旅行

今年のバス旅行は、休暇村紀州加太へ行きます。

加太駅の隣に磯ノ浦という駅があります。私が小学生だった頃、この磯ノ浦で叔母が、夏の間だけ「海の家」を営業していました。大勢の若者が昼間は海で遊び、夜は「海の家」で、談笑していました。屋根だけある、大きな板の間に、みんなが雑魚寝していたように思います。

男まさりの叔母は料理も上手で、近所の漁師さんから、売り物にならない小魚をバケツいっぱいもらってきて、調理してくれました。いつもお腹を空かしていた私は、「いいなあ。お魚、ただでもらえて」と思ったものでした。

加太はお魚が新鮮。ただ、露天風呂が、今改修中で入れないそうです。



行先	休暇村紀州加太	和歌山県和歌山市深山 4 8 3	電話	073-459-0321
月日	10 月 16 日（金）	10 時、あいびあ泉南に集合		
出発	10 時 15 分	帰着時間	16 時頃	
会費	3000 円（入浴代を含む）	◎10 月 9 日までに 483-7002（宇野）に連絡して下さい。		

# 映画「日本のいちばん長い日」を観て

私は今まで、日本は戦争に負け、天皇の玉音放送が全国に流れて戦争が終わったと思っていた。しかし、戦争が終わるといふのは、そんな簡単なことではなかった。

「日本の無条件降伏」を要求したポツダム宣言が発表されたのは7月26日。以後、連日地下の防空壕で、ポツダム宣言受諾か、否かで閣議が開かれる。終戦に向かおうとする鈴木総理に対し、阿南陸軍大臣は反対を続ける。阿南は、降伏を認めれば、若い将校達が暴走するに違いないと思っていた。結論の出ぬまま、広島・長崎に原爆が落ち、戦局は悪化した。日本が焦土となる前に、戦争を終わらせなければならぬと決意した鈴木は天皇の聖断を仰いだ。

天皇は「私の名によって始められた戦争を、私の本心からの言葉で収拾できるなら、ありがたく思う」と鈴木への頼みを聴き、マイクの前に立つ。この映画は天皇を一人の人間として描き、天皇の姿を正面から映している。

ところが、このことを知った畑中少佐達は15日未明、玉音放送を阻止しようと、クーデターを企て宮城を襲撃する。「連戦連勝を誇ってきた日本陸軍が降伏などありえない」と、玉音盤を探し回る。みつからないとなると、自分たちの決意を国民に知らせよと放送担当者に詰め寄る。だが、当時は軍の許可がなければ、勝手に放送はできない時代だった。そうするうちに夜はしらみ始め、畑中達のクーデターは軍の上層部に知れることとなり、クーデターは未遂に終わる。畑中は皇居前で自決。阿南は切腹。そして正午、玉音放送は流れた。

これで、戦争は終わった・・・のではなかった。8月16日NHKスペシャル「終戦・知られざる7日間」は、15日から22日までの日本軍の動きを追うドキュメンタリーだった。

国民は玉音放送を聞いて、戦争が終わったと知った。問題は日本軍の武装解除をどのように行うかだった。戦争は大本営が「戦争停止命令」を出して終わる。だが、大本営は「停止命令」を出せずにいた。8月15日、日本軍の部隊は国の内外に800万人いた。隊の中には玉音放送を聞いてからでも「最後の1兵になるまで徹底抗戦せよ」と指令を出す部隊長がいた。「陛下がこんなことをおっしゃるはずがない」と思った兵もいた。

8月18日、関東上空にアメリカの飛行機が2機、偵察のため飛んできた。敵機来襲と横須賀基地から14機の飛行機が飛び立った。その結果、アメリカのマルチオーネ軍曹が死んだ。アメリカは「日本人には戦争が終わったことが全く伝わっていないのではないか」と考える。「これは現場の暴発か、政府が関与していたか」とも疑う。もし、マッカーサー元帥が政府の関与した事件と捉えたら、さらなる攻撃が続いていただろう。

大本営が最も気がかりだったのは、105万人の支那派遣軍だった。ここが暴発したら、終戦の道はなくなる。18日には、朝香宮殿下を支那派遣軍・岡村総司令官の元へ送り、「終戦は天皇の意志であり、強硬な態度をとらぬように」と念を押した。その上で、大本営が『一切の戦闘を停止せよ』との命令を出したのは、22日午前0時だった。それでも、外地では翌年3月までに、3280人が戦死している。

こうして太平洋戦争は終わった。だけど、もし今戦争が始まったら、終わりはあるのだろうか。シリア、イラクでは終わりなき戦争がずっと続いている。シリアの子供達は学校へ行っているのだろうか。米軍の爆撃で親を失った子供もいるだろう。貧困と飢餓にあえぐ子供達の行く末は・・・

46年前、ノルウェーのヨハン・ガルトゥング博士の定義した、積極的平和主義≪貧困や構造的な暴力のない状態≫こそ、日本の進むべき道だと思う。 (宇野景子)

# シリーズ 教えて認知症 ②

## 認知症の人の行動

認知症が進行してくると、生活するうえで困りごとが出てきます。買い物に行って、何を買うのか忘れてしまったり、いつも記憶に残っている同じ物ばかりを買ってきてしまったり、ここがどこかが理解できず、知っている人を探してあてどなく歩き回ったり、同じことを繰り返し話すなどは、周りの人をいらいらさせるでしょう。

ただ、介護する側にとっては、困った行動でも、認知症の人にとっては、できたことができなくなり、わからなくなっていく自分が不安で不安でしかた



できなく、何とか自分で解決しようと行動しているのだと思います。

そういう時は本人の行動を否定せず、本人の気持ちに寄り添い、安心感を与える介護が大切であり、一人が抱えてしまわないよう、家族全員・社会全体で見守ることが必要だと思います。何か困ったことが起きた時には「認知症コーディネーター」や「地域包括支援センター」などの専門家や「介護者（家族）の会」などに相談してください。

泉南市いきいきネット相談支援センター せんわ  
CSW 林信好 TEL483-2022

グループホーム 平和苑  
原美穂子 TEL485-2424

### チョコボラ会

9月25日（金）  
10月23日（金）  
午後1時半～  
おいでや！泉南

### おみな会

9月26日（土） 12時～15時  
樽井区民センター1階 和室  
会費 2000円  
申込は9月22日迄に 宇野景子（483-7002）へ

### シニアのためのやさしいヨーガ

9月19日（土）・10月31日（土）・11月21日（土）  
樽井公民館 午後2時～午後3時  
講師 岡本ちかこ

### 男の介護「味彩の会」

10月2日（金）  
午前11時～平野台の湯



### お別れ

金谷フジエさん 94才

6月21日

娘の潤子さんは13年間介護を続けてきました。

### 編集後記

施設へ入所したAさんに会いに行った。昨年、「施設へ入ったら」と勧めていたが、その気にならないようだった。でも、世話をしてくれていた娘さんが出産近くなり、ようやく決心がついたようだ。当初は慣れない環境で戸惑っていたが、二週間もすると「職員さんがいろいろと気を配ってくれる」と喜んでいて。ただ、「もう、ここからは出られないのか」と不安そうに言うので、「もう少し体がよくなったなら、外出もできるよ」と言うと、笑顔になった。

（け）